



## 「2022年3月ダイヤ改正について」の検証に関する申し入れ (東京新幹線運輸区ならびに東京新幹線車両センター)

10月28日 申し入れ提出!

申し入れ項目 新幹線の安全と輸送品質の向上、現場で働く社員の労働条件、労働環境の充実を図るために

### 【共通】

- 「2021年10月運用改正について」や「2022年3月ダイヤ改正について」における成果と課題を具体的に明らかにすること。また、新幹線統括本部において、次期ダイヤ改正に向けて取り組むべき課題を示すこと。
- 2022年3月ダイヤ改正時において、労働時間算出の誤りが繰り返し発生した事象における検証結果を明らかにすること。なお、今回の教訓を生かすべく、次期ダイヤ改正時においては早めかつ前広に労使における議論を行うこと。
- 今ダイヤ改正において、準備時間、折り返し時間、整理時間において変更が生じた箇所ならびにその理由を具体的に明らかにすること。また「乗務員の業務等の見直し」における職場実態を把握し、安全な輸送サービスの提供ができるように改善を図ること。
- 新幹線乗務員においては、安全で安心な輸送サービスを実現するために、高度な技術と判断・対応能力が求められることから、それらの維持向上を図るために全方面の定期行路として複数行路設定するように努めること。なお、以下の業務については、早急に検討し改善を図ること。

- 運転士①北陸行路の「かがやき」「はくたか」の担当について。  
②東北行路の仙台以北の担当について。  
③福島駅下り2番線新青森方進入進出列車の担当について。  
車掌①新青森駅雪落とし作業ができる行路設定について。

- 「新幹線輸送力の柔軟化」の考え方に基づく臨時列車の運転計画を実施する際には、現場の意見等を踏まえ混乱をきたさぬよう取り組むこと。特に、新幹線乗務員業務においては、高度な専門性と技術力が求められ、かつ変動性が高いことから適正な要員配置を行うこと。
- 輸送力確保の観点から281Bおよび266BをJ+L編成で運転すること。
- 食事を目的とした乗務の中断時間については、稠密線区と同等以上の時間を確保し「健康経営」を実現すること。
- 国の観光需要喚起策「全国旅行支援」や入国者数の上限撤廃など、新幹線需要が大きく変化してきていることから駅構内において専門的案内スタッフを配置して安全と安心な輸送サービスの提供を行うこと。
- 東京駅新幹線ホーム下に乗務員乗り継ぎ詰所を設置すること。
- 今申し入れに対する回答は、2022年11月11日までに行うこと。また、団体交渉は2022年11月25日まで実施すること。

### 【運転士】

- 東京新幹線車両センターにおいて、新幹線便乗後にて着発番線到着後11分とした根拠を具体的に明らかにすること。
- 寒冷地にある各車両センター構内の移動時分については、天候状況(降雨降雪、夏場の高温、冬季における低温、路面凍結等)の通路状況を考慮した時分とすること。また、不審者等から身を守るなど社員の安全・健康に留意したタクシー利用の判断を行うこと。
- ガーラ湯沢駅構内においては、留置車両に雪積とならないように駅設備の改良を行うこと。
- 準備時間、折返し時間、整理時間において、編成毎の設定を行うのではなく従前の全編成同一の時間として算出すること。
- 育児・介護勤務Aの短時間行路設定にあたっては、育児・介護を必要とした社員の働き方を促進するために日中時間帯での作成を行うこと。

### 【車掌】

- 業務内容の偏りにより心身への負担増が明らかであることから在宅休養時間の確保ならびに働き方改革に踏まえた勤務作成を行うこと。なお、以下の行路について、前泊を前提とした泊り行路の設定を解消すること。  
C1101行路(6:12出勤)、C1102行路(7:08出勤)、  
C1103行路(7:40出勤)、C1201行路(6:48出勤)
- C1281行路の拘束時間を短縮するために他区所との持ち替えを含め検討し行路作成を行うこと。
- C1108行路においては、睡眠を目的とした乗務の中断時間を拡大するように行路作成を行うこと。

### 【車両センター】

- 687B入庫698B出庫の運用での仕業検査については、作業時間が僅少であり臨時修繕が行えず作業安全にも関わることから、作業時間を確保できるように改善すること。
- 技量維持の観点から、定期的な分割併合作業を設定すること。